

2022年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	西川進			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
<p>編曲やトラック制作をする際の「フレーズの作り方」に関して学びます。発声などのヴォーカルトレーニングとコーラスなどを学びながら、現代のJ-POP・Rockのルーツをさかのぼって学習していきます。外部企業と提携し、楽曲制作に必要なジャンルや楽器の和声や旋律、音作りを生徒が主体的に考え、不明点を生徒自身で模索し、完成できるよう学習していきます。また、ミックスの知識を得ることでより本格的な音源に仕上げる方法を学習します。書籍「決定版 音楽理論ワークブック ポピュラー音楽を完全理解」を使用しながら、より高度な音楽理論を学び理解を深める。反復し問題を解くことで基本的な音楽理論の知識を確実なものとする。</p>											
到達目標											
<p>いかなるコード進行やリズムパターンにおいても、的確かつオリジナリティーのあるフレーズを構築出来ること。STEAM学習方針を取り入れ、創造の基盤となる総合的な知識や経験力を身につける。様々な音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する。オーケストレーションに必要な基礎的な読譜力、記憶力、各使用楽器の音域や使用方法について学び、習得する。オースドックスなクラシック理論のみならず、現代的コード理論との融合を目指す。作品や自身を表現するロゴ作成、Webページ作成など、プロモーションを行うためのスキルも体得する。様々な音楽ジャンルを理解し、依頼されたテーマに基づく楽曲を制作できる技術を習得する。自身の楽曲に対するプレゼンテーションが行える。流通媒体に合わせた音量調整や納品形態を理解、実現できる。イコライザー、コンプレッサーといったエフェクトを理解し、デモ音源から製品レベルまでの音源クオリティを学び、自身でミキシングできる技術を習得する。音楽家として、特に作曲に必要な音楽理論を理解し、楽曲を制作する際においてその知識を作品に生かすことができるようになる。</p>											
授業方法											
<p>毎週違った「推薦曲」のフレーズ分析。多種多様なコード進行、スケール、リズムパターンにおけるのフレーズ作りを、教室のDAWにて実際に体験してもらう。西川進オリジナル作品のシステムを使い、各楽器のフレーズングのこつを学び、作品を完成させる。指定の楽曲を参考音源と楽譜をもとに様々なジャンルやアレンジャーのサウンドスタイルを分析する。同時に、ゲーム音楽、J-POP双方のオリジナル作品を作曲し、オーケストレーションの手法を用い仕上げていく。各種弦楽器、管楽器、打楽器以外にも、現代におけるシンセサイザーなどの編入楽器など、各学生のオリジナリティーある組み合わせにも柔軟に対応していくものとする。課題の定期的な試験会とディスカッションも行う。指示されたテーマに関する音楽のジャンルや楽器の選別を行い、雰囲気を考え（例：スパイ映画風、ヒーリング映像、闘うシーン）、どう楽曲を演出するかを分析する。全体での講義と各自の制作時間を設け、各々の修練度に見合ったアドバイスを各講師が行っていく。様々なジャンル、ロックやジャズ、ポサノヴァ、エレクトロ、和風、劇伴、ゲーム音楽などの特徴を考え、時には融合することで現在のニーズに合う楽曲を紹介、分析する。エフェクトの効果を実際に体験し、変化の聞き分けや折り重なる楽器との調和を試みる。音楽理論ワークブックで学習し、項目末にある問題を解くことで理解を深める。学習時にはピアノなどの楽器で音を出して理論を理解し、楽曲を制作する際においてその知識を作品に生かすことができるようになる。</p>											
成績評価方法											
<p>試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)</p>											
履修上の注意											
<p>専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
<p>西川進オリジナル教材を使う。適時、講師より教材を配布する。適時、講師より教材を配布する。ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。また自身のPCを持ち込むことも可。適時、講師より教材を配布する。</p>											
回数	授業計画										
第1回	<p>ペンタトニックスケール（メジャー）におけるフレーズング。 課題曲「KATE」におけるフレーズング。典型的なEDMスタイルを分析。音色のバリエーション。/重音の理解。/アンビエント系サウンドを使用したサウンドロゴ制作。"テーマに沿った楽曲イメージを調査しまとめる。"データの管理方法の再確認。"前期の復習 ワークブック前期使用のページ</p>										
第2回	<p>ペンタトニックスケール（マイナー）におけるフレーズング。 課題曲「KATE」におけるフレーズング。リードシートをもとに、EDMスタイルの打ち込み。/重音の理解。/アンビエント系サウンドを使用したサウンドロゴ制作。"楽曲制作01：必要な楽器の選別やジャンル、リズムやテンポといった楽曲の大まかな雰囲気をイメージする。"因まかな楽曲の全体像の把握、セクションをイメージする。楽曲の骨組みを考える。"前期の復習 ワークブック前期使用のページ</p>										
第3回	<p>西川進スケールにおけるフレーズング。 課題曲「KATE」におけるフレーズング。入力データのブラッシュアップ。/金管楽器の代表的奏法の理解。/バンドサウンドのサウンドロゴ制作。楽曲制作02：リズムパート（ドラムやベース）パターンをリファレンスし、再現したりアレンジして各自の楽曲に反映させる。短音階上の和音 ワークブック 103～121p</p>										

2022年度 日本工学院八王子専門学校

ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース

ベーシックレッスン2

第4回	メジャースケールにおけるフレージング。 課題曲「KATE」におけるフレージング。 サイドチェーン、モジュレーション系エフェクトの理解。 /木管楽器の代表的奏法の理解。 /バンドサウンドのサウンドロゴ制作。 楽曲制作03：曲の基本となるモチーフを考え、シンプルでわかりやすいフレーズを考える。 音色も考慮する。 " 主要和音 ワークブック 103~121p
第5回	マイナースケールにおけるフレージング。 課題曲「KATE」におけるフレージング。 典型的なR&Bスタイルを分析。 リズムパターン、音色選び。 /木管楽器の代表的奏法の理解。 /バンドサウンドのサウンドロゴ制作。 楽曲制作04：ウワモノの入力。 楽曲のキーやコード進行を考え入力する。 ④お、各々の作曲方法により02~03は順不同となる。 " " 終止形 ワークブック 103~121p
第6回	ハーモニック メロディック マイナースケールにおけるフレージング。 課題曲「Nothing To Lose」におけるフレージング。 R&Bスタイルの自作曲の制作。 /打楽器の使用法の理解。 /デジタルサウンドのサウンドロゴ制作。 楽曲制作05：制作を継続。 全体のバランスを考えながら楽器の配置や演出を考える。 短調でのセカンダリードミナントコード ワークブック 133、152~164p
第7回	ドリアンスケールにおけるフレージング。 課題曲「Nothing To Lose」におけるフレージング。 R&Bスタイルの自作曲のミックス、リードシート制作、提出。 /デジタルサウンドのサウンドロゴ制作。 楽曲制作06：制作を継続。 全体のバランスを考えながら楽器の配置や演出を考える。 短調でのセカンダリードミナントコード ワークブック 133、152~164p
第8回	フリジアンスケールにおけるフレージング。 課題曲「Nothing To Lose」におけるフレージング。 提出音源の授業内発表。 /Webページ作成サービスを活用した作品発表。 中間確認。 この段階でラフなデモ音源が完成できるよう制作を進める。 書き出し音量とファイル形式について。 Google classroomでの提出方法。 平行調、同主調 ワークブック 122~129p
第9回	ミクソリディアンスケールにおけるフレージング。 課題曲「Nothing To Lose」におけるフレージング。 様々な民族音楽のスタイルを分析。 使用楽器のバリエーション。 /Webページ作成サービスを活用した作品発表。 楽曲制作07：各楽器パートのブラッシュアップを行う。 楽曲イメージに合わせた楽器の演奏方法を模索する。 平行調、同主調 ワークブック 122~129p
第10回	オルタードドミナントスケールにおけるフレージング。 課題曲「Nothing To Lose」におけるフレージング。 典型的なJazzスタイルを分析。 ボイシングとバックパターン。 /編入楽器の理解。 /Webページ作成サービスを活用した作品発表。 楽曲制作08：制作を継続。 各楽器のパンニングを再確認する。 空間系エフェクトを使用し臨場感を表現する。 /空間系FXの詳細、リバープとディレイ。 ドミナントコードの代理和音 ワークブック 176~189p
第11回	ブルーススケールにおけるフレージング。 課題曲「orange」におけるフレージング。 ボーカル曲の制作その1。 /ビッグバンドジャズアレンジの導入。 /Webページ作成サービスを活用した作品発表。 楽曲制作09：ミキシング。 リズム隊の音量バランスを考える。 リファレンス検索。 /グループトラックとルーティングについて。 " " 偽終止 ワークブック 90~194p
第12回	ディミニッシュスケールにおけるフレージング。 課題曲「orange」におけるフレージング。 ボーカル曲の制作その2。 /ビッグバンドジャズアレンジの導入。 /Webページ作成サービスを活用した作品発表。 楽曲制作10：ミキシング。 リズム隊に対するメインパートの音量バランス。 またウワモノのバランスを考える。 /コンプレッサー、サイドチェーンについて。 " " 経過和音 ワークブック 195~199p
第13回	スパニッシュスケールにおけるフレージング。 課題曲「orange」におけるフレージング。 ボーカル曲の制作その3。 必要に応じ歌や楽器の録音。 /オリジナルサウンドロゴ制作。 楽曲制作11：ミキシング。 リファレンスと比較し全体調整を行う。 /VCAとは。 スケールの種類 ワークブック 217~227p
第14回	インド音階におけるフレージング。 課題曲「orange」におけるフレージング。 オリジナルのボーカル曲の仕上げ、楽譜制作、提出。 /オリジナルサウンドロゴ制作。 楽曲制作12：ミキシング。 最終工程を行う。 書き出し形式やファイル名について。 /リミッター、マスターエフェクトについて。 スケールの種類 ワークブック 217~227p
第15回	アウトフレーズにおけるフレージング。 後期課題発表会。 提出物の授業内発表、後期のまとめ。 楽曲提出。 授業内発表とプレゼンテーション、後期のまとめ。 後期のまとめ。